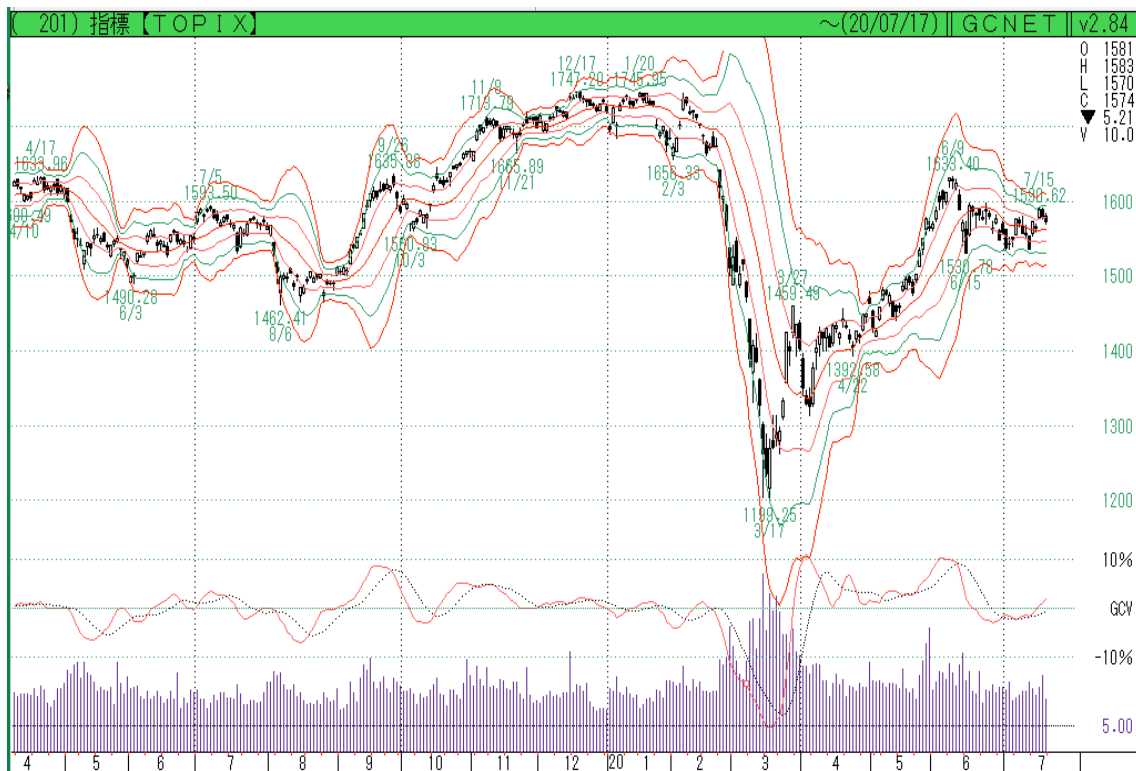


(令和2年7月20日)

＜ ワンポイントレッスン (実践) ＞
(ボリンジャーバンドの収束)

ボリンジャーバンドの利用方法の一つに、収束・発散があります。テクニカルにみれば、株価の変動が小さい状態が続いたあとで保合いに入り、その状態が一定期間続くと、その後には株価が大きく動くことがあります、そのタイミングを捉えようとするもの。現状のマーケットは、まだその状態に近いとは言えませんが、ボリンジャーバンドが収束に近づくことも考えておきたいものです。基本は、「動き出した方向に順張り」ですが、時には動き出して短期間の間に反転、その後のトレンドの方が大きいこともあるので、トレンドが確認できるまでは、要トレースです。下記グラフ、昨年の8月にバンドの幅が狭くなった後、大きく上方に動き出した局面が参考になると思います。なお、方向は上昇することも下落することもあり、一定ではないこともグラフからご確認下さい。

(TOPIX&ボリンジャーバンド、日足)



All Copyright © ゴールデン・チャート社

ボリンジャーバンドは、一定の期間の移動平均線との乖離の標準偏差を計算、移動平均線に $\pm 1\sigma$ 、 $\pm 2\sigma$ 、 $\pm 3\sigma$ のラインを描いたもの。上記とは別に、 $\pm 2\sigma$ 以上に株価が離れたときに、逆張りするといった使い方もあります。